

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 21日から22日にかけて、低気圧が日本海を進む。前線は、東シナ海から本州南岸を通して日本の東へのびる。高気圧がオホーツク海をゆっくり南へ移動する。
- 23日から25日にかけては、高気圧が千島近海に移動し、気圧の尾根は日本海へのびる。前線は本州南岸付近にのびる。

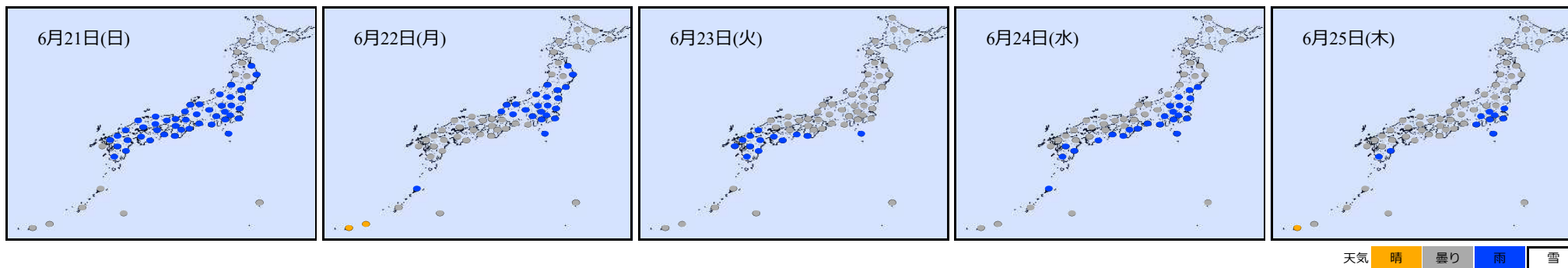
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

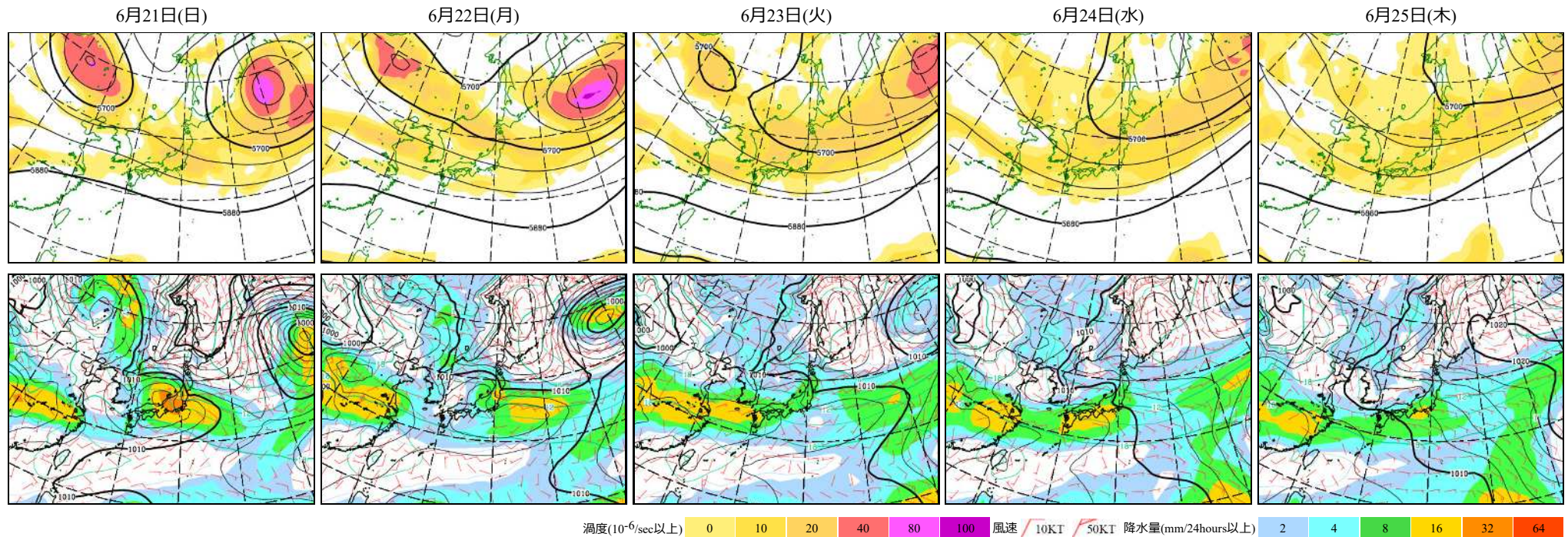
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

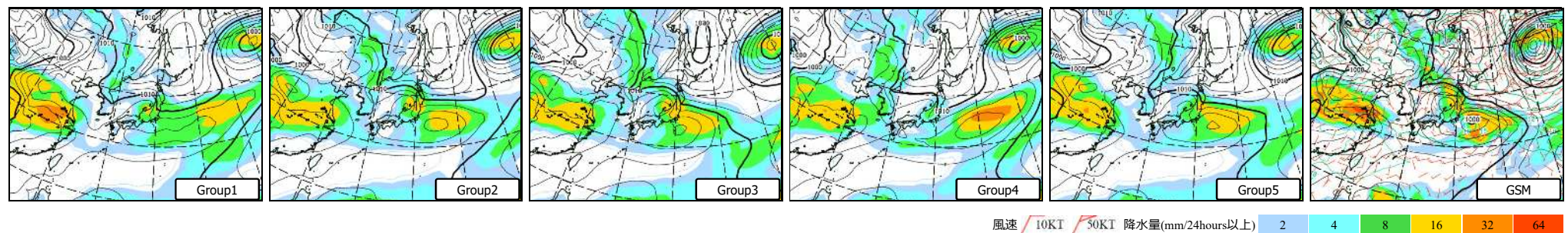


- 北日本から西日本にかけては、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、22日と24日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月22日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、トラフやリッジが明瞭化した。モンゴルから中国東北区に進む寒冷渦の東進は遅くなった。オホーツク海高気圧は全体的に強くなった。前線や低気圧の位置が明瞭化し、南下した。
- 22日に日本海を進む低気圧は、比較的明瞭に予測するメンバーが多いが、不明瞭化するメンバーもある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、期間後半は海外モデルも参考にする。